（独）農畜産業振興機構
畜 産 業 振 興 事 業

# 飼料増産ホットニュース

第 54 号　2009. 7. 15
発行者　全国飼料増産行動会議事務局
事務局　（社）日本草地畜産種子協会
〒104-0031 東京都中央区京橋 1-19-8
大野ビル
TEL 03-3562-7032　FAX 03-3562-1651
http://souchi.lin.go.jp/

## とうもろこし作付け拡大

### 自給飼料生産・給与によるマスターブリーダーレベルを目指して
### ～西南団地における粗飼料多給による酪農経営～

熊本県菊池地域振興局農林部農業普及・振興課　堀口太久

### 1　はじめに

後藤牧場は熊本市の北東部の合志市に位置し、その歴史は昭和２３年に祖父が経産牛１頭、育成牛１頭を導入したところから始まり、現在３代目にあたる後藤 勝 氏が、両親と妻とともに、搾乳牛５０頭、育成牛３０頭、黒毛和種（繁殖）４頭の経営を営んでおられます。

経営の特徴としては、牛飼いの基本「土・草・牛」の管理を徹底するという考え方を実践するものであり、粗飼料生産の充実等基本的な部分の生産性を最大限に高めることで余裕を持った経営を実現されています。

以下、氏の経歴を含め、経営における自給飼料生産への取り組み等を中心に紹介します。

後藤さん一家

### 2　就農に至るまで

後藤氏は昭和４１年に生まれ、地元高校を卒業後、北海道の酪農関係大学に進学し、道内の標茶町の大山牧場、恵庭市の山懸牧場及びカナダのオンタリオ州ニッポニアホルスタインズで研修を受けた後、昭和６２年に就農されています。

大山牧場

山縣牧場

ニッポニア ホルスタインズ

実習された３カ所の牧場では以下の点を学ばれたということです。

① 豊富な自給飼料生産が基本。
② 粗飼料を育成の段階からふんだんに給与し、腹作りを行う。
③ 成牛にも、良質な粗飼料をたくさん与えることにより、平均産次を延ばす。
④ 平均産次を延ばす事により、多くの後継牛を残す。
⑤ 生涯乳量を確保することで１頭の母牛から最も多くの乳と子牛を得る。
⑥ 経営方針に合った牛群へと改良を進めていく。

## ３　就農にあたって

後藤氏は、研修により学んだ自給粗飼料による高能力牛群の維持を頭に描きながら、カナダにおいて牛群の改良、乳量・乳成分などあらゆる部門で高いレベルに達した酪農家に与えられる称号である「マスターブリーダー」レベルへの到達を自己の目標として、就農されています。

## ４　自給飼料生産への取り組み

後藤氏の経営に対する考えは、前述のとおり牛群の平均産次を延ばし、より多くの後継牛を確保することですが、経験上、体積に余裕のある牛ほど、乳量が得られるうえに長持ちしているように感じており、このような牛群の維持を重要視されています。

このため、自らが納得できる良質な粗飼料を育成段階から十分に給与するために、基本に忠実な「草づくり」「土づくり」を実践されています。

具体的には、生産した粗飼料の品質管理には最善の注意を払う必要があるため、土壌分析の結果に基づき、化学肥料を減らすなど、牛や環境に負担のかからない適切な施肥管理を実施されています。

また、地力増進のために、十分に発酵の進んだ堆肥をほ場に還元することに心掛けられています。

**堆肥散布とプラウ耕**

なお、施肥管理以外にも、１年に１回、プラウもしくはサブソイラーを使った土壌改良も併せて行なわれています。

## ５　機械利用組合の設立（自走式コーンハーベスターの導入）

自給粗飼料を生産していくには相当の労働力が必要であり、特にとうもろこしの２期作体系においては、夏場の短期間に１期作目収穫、２期作目播種等の過重な労働を連続して行う必要があります。

このため、労働負担軽減対策として、３戸の農家で補助事業のコントラクター事業に取り組み、自走式コーンハーベスターを導入し、機械利用組合を組織化されています。

自走式ハーベスターによるとうもろこし収穫

これによって、とうもろこし収穫作業の効率化を図るとともに、播種作業においても不耕起プランターを導入し、２期作目を不耕起播種と同時に液肥を散布する作業体系に変更したことにより、作業全般がシンプルでスピーディーに行えるようになっています。併せて、コーンサイレージ調製に要する家族の労働時間も大幅に削減されています。

また、牧草についても収穫・運搬・ラッピングについて共同作業を実施しており、大幅な作業時間の短縮と作業機械のコスト低減が図られています。

これらの改善を図ったことにより、従来の１日あたり 50～60a の収穫から１日５ha の収穫が可能となっています。更に、収穫する時期についても、作業時間が大幅に短縮したことから適期での収穫が可能となっています。

また、飼料作物の作付け延べ面積については、これまでの５ha から、とうもろこし 12ha、イタリアンライグラスなどを７ha へ増やすことが出来ています。

## 6　これまでの取り組みの成果

牛群に対して自給飼料を育成段階から多給することで、腹作りができるとともに健康状態も良好となっており、牛の治療等に要するコストの削減につながっています。

また、現在は生乳の生産調整による淘汰等を実施した結果、平均産次が 2.9 産となっていますが、これまでは３産以上を維持しています。

生乳生産については、経産牛１頭当たり乳量は就農当時 6,300 kgであったものが、良質なコーンサイレージの通年給与が可能となったこと等により、現在では10,000 kgまで増加しており、自給飼料多給による生産性向上効果が良い方向に現れています。

## 7　終わりに

現在、配合飼料価格は落ち着きつつありますが、依然高値基調で推移していることは事実であり、海外の飼料・穀物飼料相場の動向により、配合飼料価格が左右される不安定な状況は今後も変わらないと思われます。

このような中、後藤氏の事例は、西南暖地において粗飼料多給による酪農経営を目指したものであり、自給飼料生産にあらためて目を向けるきっかけとなるのではないでしょうか。今後、さらに安定した酪農経営の確立を図るため、このような取り組みが広がることを期待します。

## 第１３回全国草地畜産コンクール表彰式

（社）日本草　畜産種子協会主催による「第１３回全国草地畜産コンクール表彰式」が平成21年６月29日（月）、発明会館にて開催されました。

農林水産大臣賞に青森県むつ市の鈴木悦雄氏・栄子ご夫妻が選ばれるとともに、農林水産省生産局長賞、（社）日本草地畜産種子協会会長賞など８人の受賞が決まりました。ここに受賞者をご紹介します。

第１３回全国草地畜産コンクール表彰式」が平成21年６月29日（月）、発明会館（東京）で開催され表彰式の後、受賞事例の発表とパネルディスカッションが催されました。

受賞事例の選定に当たっては、全国各地から推薦されたコンクール出品財の書類審査が事前に行われ、その後、現地審査が実施されました。

審査では、「自給飼料の効率的な生産、利用技術並びに環境に調和した持続的生産・経営方式等優秀な事例」を選定の基本とし、特に、経営・技術の先進性・収益性、飼料自給率、飼料生産コスト、労働生産性、飼料生産技術又は放牧技術、地域に対する貢献度、普及性等を総合的に評価し、選定が行われました。

この結果、飼料生産部門から３点、放牧部門から５点、合計８点が選ばれました。

栄えある受賞者の方達を次頁に紹介します。各受賞者の詳しい業績については、当協会のホームページ（http://souchi.lin.go.jp）をご覧下さい。

なお、第１４回全国草地畜産コンクールの出品財の受付を、平成２１年１１月頃から行うこととしておりますので、応募をお待ちしております。

| 受賞名 | 部門名（出品財名） | 受賞者名 | 経営の特徴 |
|---|---|---|---|
| 農林水産大臣賞 | 放牧部門（肉用牛繁殖経） | 青森県むつ市<br>鈴木悦雄・栄子（すずき えつお・えいこ） | ダム建設に伴う集落移転後も入植地の経営基盤をもとに離農者の所有地の借り入れなどにより土地基盤を集積し、夏山冬里方式で大規模な肉用牛繁殖牛の飼養を中心に野菜作との複合経営。繁殖牛 65 頭、粗飼料自給率 100%、自給飼料生産コスト 8.9 円/TDNkg、所得率 43.2% |
| 農林水産省生産局長賞 | 放牧部門（公共牧場） | 北海道十勝郡浦幌町<br>浦幌町模範牧場<br>町長 水澤一廣（みずさわ かずひろ） | 土壌診断に基づく草地施肥管理、短草型草地の集約放牧、合理的な労働配分により、黒字経営を実現した公共牧場。出品ほ場面積 447ha、夏期放牧頭数 621 頭、利用農家戸数 37 戸、冬季舎飼頭数 500 頭利用農家戸数 35 戸、哺育育成頭数 127 頭、利用農家戸数１６戸、放牧期間は 5～10 月 |
| | 飼料生産部門（ｺﾝﾄﾗｸﾀｰ）（稲ＷＣＳ） | 鳥取県鳥取市<br>（株）東部ｺﾝﾄﾗｸﾀｰ<br>代表取締役社長<br>鎌谷一也（かまたに かずや） | 飼料用イネ WCS と堆肥還元を軸に水田と畜産の耕畜連携の推進に大きく貢献する株式会社コントラクター。飼料用イネ生産営農集団（234 戸）と東部畜産振興会(36 戸)を介した耕畜連携、受託面積 127.7ha、飼料用ｲﾈ WCS 生産量 2,959ｔ（9,410 個）、堆肥還元（4,400ｔ） |
| | 放牧部門（酪農経営） | 北海道厚岸郡浜中町<br>押切克之（おしきり かつゆき） | 集約放牧酪農から舎飼高泌乳牛飼養そして大牧区での放牧酪農へと変遷、経験を重ね、土壌診断による施肥管理と大牧区の放牧利用で経営を安定させた酪農経営。乳飼比 24.6%、粗飼料自給率 100%、自給飼料生産コスト 23.0 円/TDNkg、所得率 35.5% |
| （社）日本草地畜産種子協会 会長賞 | 放牧部門（酪農経営） | 北海道野付郡別海町<br>穴吹威（あなぶき たけし） | 消費者へ適正な価格で生乳を供給することや、環境保全を意識した経営を確立するため、土壌診断に基づいた施肥管理と昼夜放牧で確実に理想の経営を実現しつつある新規就農の酪農経営。乳飼比 22.9%、粗飼料自給率 73.7%、自給飼料生産コスト 27.0 円/TDNkg、所得率 29.7% |
| | 飼料生産部門（飼料作物）（酪農＋肉用牛繁殖経営） | 茨城県久慈郡大子町<br>戸辺久一郎（とべ きゅういちろう） | ４１枚もの小区画分散圃場を集積し、飼料用とうもろこし 4.2ha と冬作に極早生えん麦 1ha を栽培する等、自給飼料生産に取り組む酪農＋肉用牛繁殖経営。乳用牛（成牛 44 頭、育成牛 11 頭、子牛 12 頭）、肉用牛繁殖(5 頭)、粗飼料自給率 46.0%、所得率 21.6% |
| | 飼料生産部門（永年牧草）（肉用牛繁殖経） | 岡山県新見市<br>土井肇（どい はじめ） | 典型的な山間地域で、酪農から肉用牛へ転換し、遊休地を活用した自給飼料生産に取り組む採草地利用型の肉用牛繁殖経営。粗飼料自給率 55.8%、自給飼料生産コスト 50.5 円/TDNkg、所得率 22.0% |
| （社）日本草地畜産種子協会 会長特別賞 | 放牧部門（酪農経営） | 福島県二本松市<br>渡辺裕市（わたなべ ひろいち） | 高標高・積雪寒冷地で、風土にあった草種の選択、急傾斜山林での放牧、借地などによる隣接農地の集積、ﾊﾟｿｺﾝ利用による分析などの工夫で自給粗飼料を軸に、堆肥還元による地域農業にも貢献する「１人でもできる酪農」を実践する酪農経営。粗飼料自給率 84.4% |

**事務局より**

**《飼料増産重点地区への登録のお手伝いをします。》**

❒「飼料増産重点地区への登録のため、当協会では飼料増産に関する研修会、現地指導等について講師を派遣しています。詳細については、当協会ホームページをご覧下さい。

**《第９回放牧サミットの開催について》**

❒ 平成２１年９月１６日～１７日、岩手県下で開催いたします。詳細は決定次第当協会ホームページ等でお知らせします。

**《放牧アドバイザーによる放牧の現地指導について》**

❒ 放牧アドバイザーによる放牧の現地指導、放牧に関する講演の講師を派遣しています。詳細については、当協会のホームページをご覧下さい。

**放牧アドバイザーの旅費、教材費等は当協会が負担します。**